

E

房で不用になつてゐる試打クラブを、練習用クラブとして再生するアイテムです」

ルーツゴルフの平野俊雄社長はそう話す。同社は4月末、昨今流行のスイング「シャローイング」を習得できる練習器具『シャロぽん ヒンジアシスター』を発売した。

「当社は『ルーツゴルフ』のクラブを販売しますが、5年ほど前から工房を中心にクラブヘッドを卸す事業を始めました。それで工房へ行く、不用になつた試打クラブが『いつか使うだろう』と置いてある。でも利用法が見つからない。そこで不用の試打クラブで練習器具を開発しようと考えたのです」

開発の際、着目したのが「シャローイング」というスイング理論。簡単に言えば、クラブを切り返して左腕が地面と平行になつたとき、クラブヘッドが背中側に大きく倒れる動きだ。近年、クラブヘッドの外郭部の質量を高めて曲がりにくい飛球が打てる高慣性モーメントのクラブが主流だが、これに合ったスイングがシャローイングで体得できるという。テスターは同社営業部の大同一輝氏が務めた。大学ゴルフ部の出身、『ルーツ』のクラブを使って大会に出

場していたが、

「スイングがなかなかブレインにならず悩んでました。そのタイミングで『シャロぽん』のプロトタイプができて、テストを兼ねて練習を半年続けたらシャローイングが習得できたのです」

と大同一氏。これを受けて平野社長はこう続ける。

「高慣性モーメントのクラブが増えて、特にゴルフ歴の長いゴルファーは思うようにスイングできないと聞きます。シャローイングは高慣性モ

ーメントのクラブを上手くスイングブレインに乗せられる技術で、ユーチューブなどの映像で理解はできるものの、習得できる練習器具がなかった。プロトタイプから10回ほど修正して完成しました」

同製品の形状は写真に一目瞭然だが、アルミ製で直径約13mm、長さ90mmの円柱型で、中央が九の字に曲がつている。重量は37g前後、曲がつたアルミの棒をクラブのバット側に装着すると、スイングのトップでクラブが背中側に倒れやすくなる。そ

れでシャローイングを習得できるという理屈。

面白いのはここからだ。大手専門店に比べて販売量が少ない工房は、試打クラブを有料で購入するケースが多いのだが、ニューモデルが出れば旧品の試打クラブは不用になる。

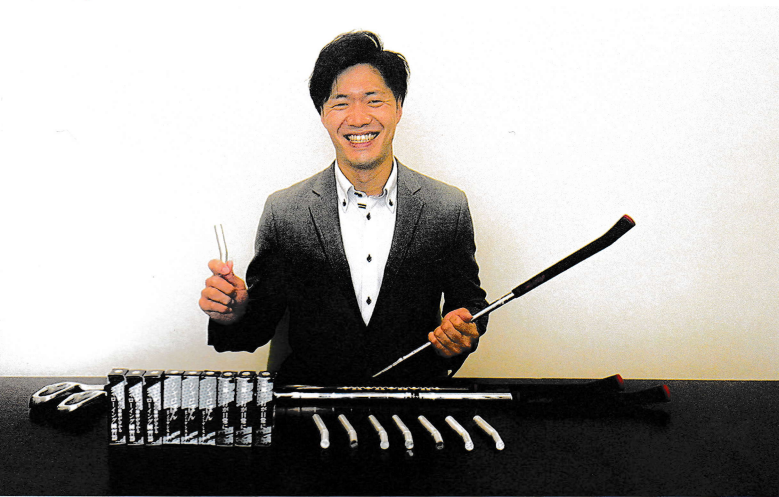
廃棄するのもコストが掛かり、無用の長物となつてしまふ。物不足に喘ぐ昨今、これでは如何にもモツタイナイということだ、

「古いクラブに『シャロぽん』を装着して、練習器具として販売すれば環境問題にも寄与できる。クラブの持続的な利用法として、徐々に広げていきたいですね」

平野社長、世界に広がるSDGsを強く意識しているのだ。中でもクラブやシューズにガラスコーティングをして商品寿命を延ばす『ハドラス』からも発想を得たようだ、

「ガラスコーティングは市場になつた商品で、SDGsの思想に通じます。『シャロぽん』も第二のガラスコーティングを目指したい」

同社のクラブに『シャロぽん』を装着した練習用クラブは2万2000円、単体で1万6500円。SDGsが商品開発の源泉になった、小さな一歩といえるだろう。(吉村)



06 古い試打クラブの再利用でSDGs的発想の練習器具

自らスイング改造に使用した大同一輝氏